

## ドロッカーの小さな学校 2021年度

『【エッセンシャル版】マネジメント 基本と原則』学習コース（第一期）開講

（受講者報告）

第一回

開催日時：2021年8月7日(土) 10:00~12:05 受講者報告

開催形式：ZoomによるOnline開催

今年度のドロッカーの小さな学校は『【エッセンシャル版】マネジメント』をテキストとし、4回シリーズで読み込む中で、①ドロッカーのマネジメントの基本と原則の確認、②マネジメント思想のフレームワークの基本の理解、③明日の社会と組織、自らの生き方と働き方に関わるマネジメントを見直す場を提供するというねらいをもって開催されたもので、今回はその第一回であった。

Onlineということで、東京近隣に住む方のみならず、お住いの場所に限らず参加できるということ、また、コロナ禍の中にあってドロッカーを学び直したいという方が顕在化したということなのだろう、募集して早い時期に定員に達した。

当日の参加人数もNAVIを含めて50人を超える盛況であったが、冒頭の阪井和男会長のご挨拶から始まり全員の参加でのワークショップまで、内容も充実し、初対面にもかかわらず議論も非常に活発に行われ、終始活気を感じるあっという間の二時間であった。

冒頭、阪井和男会長から開講のご挨拶があり、それに続いて<セッション1>として、井坂康志氏（ドロッカー学会理事）による「思想としてのマネジメントとその源流」と題してドロッカーの思想の背景を体系的に学ぶ機会を得た。ドロッカーの知的体系を一本の木にたとえてビジュアル化され、通常話題になりにくいその「根」の部分を中心に体系的に解説頂いた。ドロッカーの幼少時の家庭環境が非常に文化的であり多様な人々の交流の場であったことやジャーナリストとして過ごした時間やそこでの上司とのやり取りの話が特に印象的であったが、単発のエピソードでなく、体系的にお話頂いたので、「表」に現れているドロッカーの著作の深い「根」を強く感じる事ができた。

<セッション2>は森岡健仁氏（ドロッカー学会理事）による『【エッセンシャル版】マネジメント』に沿ってその読み方と解説があった。書籍を実際にめくるビジュアルを使っての解説は臨場感があり、注意をそらさせない工夫がなされていた。

Part1のマネジメントの使命についての解説は通り一遍のものではなく、長年ドロッカーを研究されている森岡氏のメリハリの付けられたものでありドロッカー初学者の私にもわかりやすく整理されたものであった。本講座のねらいである理解と確認に役だった。

また、一般的には「日本の読者へ」や「まえがき」はさらっと触れる程度の扱いとなるの  
だろうが、これらの部分も我々読者に対する、とりわけ日本の読者に対する重要なメッセー  
ジとして時間をかけて森岡氏が解説されたのが印象的だった。特に本書の読み方として「自  
分事として読むこと」とドラッカーが日本の読者に書いている点は、ドラッカーがどれほど  
日本に対してリスペクトしているか、また苦境に陥っている 2001 年当時の日本に対する熱  
い期待を感じた。それから既に 20 年が経過した今はドラッカーのこの言葉は一層重く、こ  
の時期に『マネジメント』を読むことの意味を考えずにはおれなかった。

<セッション 3>は 4 つのグループに分かれて「ニューノーマル時代のマネジメント課  
題」を検討した。参加メンバーそれぞれがニューノーマル時代にあつての課題や心配事を検  
討し、発表し合った。私の参加したグループでは、単に課題や心配事を挙げるだけでなく、  
「自分事として」その背景や挙げた理由なども積極的に披露して頂き、幅広い課題、心配事  
と視点に触れる機会となった。

4 回シリーズの第一回ということで、また Online 開催ということで主催者側も出席者側  
も不慣れな部分もあったと思うが、全体的として円滑に進行され、内容も大変充実したもの  
になったと感じた。今後参加者相互の交流が進むことで、一層議論が活発になり、マネジメ  
ントの実践へのヒントと力を頂けることが期待できるとも感じた。

コロナ禍という厳しい環境の中で、この新しい試みの企画、検討、運営の中心となって頂  
き、実施に漕ぎつけさせた森岡理事をはじめ、登壇頂いた理事の皆様、協力スタッフの皆様  
には心より感謝致します。

回が深まる中で、一層充実した時間を持つことができ、ドラッカーのマネジメントの実践  
に近づけることを期待します。

(第 2 班 ナビゲーター 竹村 浩)